

# 令和2年度第4回 インターネット都政モニターアンケート

「生物多様性について」

## 調査結果



## 調査実施の概要

- 1 アンケートテーマ  
「生物多様性について」
- 2 アンケート目的  
生物多様性に関する都民の認識を把握し、生物多様性地域戦略の改定作業及び今後の関連施策の検討及び推進の参考とする。
- 3 アンケート期間  
令和2年9月30日（水曜日）から10月6日（火曜日）まで
- 4 アンケート方法  
インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答を入力する。
- 5 インターネット都政モニター数  
500人
- 6 回答者数  
484人
- 7 回答率  
96.8%

※ 本報告書では、一部、前回調査(平成22年9月実施「生物多様性について」)との比較を行っています。

## 生物多様性について

### 1 調査項目

- Q 1 住まいの所在地
- Q 2 身近な自然環境の変化
- Q 3 身近な自然環境の変化の原因
- Q 4 住まい周辺の自然環境のあるべき姿
- Q 5 日常生活の中で自然の恵みを感じる場面
- Q 6 自然環境や生きもののために日頃から心がけていること
- Q 7 自然環境や生きものに関する情報
- Q 8 自然環境や生きものに配慮した企業活動に期待すること
- Q 9 環境に配慮した消費行動
- Q 10 自然環境に配慮した商品への関心
- Q 11 「生物多様性」という言葉の認知度
- Q 12 「生物多様性」の普及
- Q 13 外来種について
- Q 14 都に力を入れてほしい取組
- Q 15 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識の変化
- Q 16 自由意見

### 2 アンケート回答者属性

		モニター 人数	回 答		
			人数	構成比	率
全 体		500	484	-	96.8
性 別	男 性	250	243	50.2	97.2
	女 性	250	241	49.8	96.4
年 代 別	18・19歳	6	5	1.0	83.3
	20 代	67	65	13.4	97.0
	30 代	83	82	16.9	98.8
	40 代	99	94	19.4	94.9
	50 代	81	76	15.7	93.8
	60 代	77	77	15.9	100.0
	70歳以上	87	85	17.6	97.7
職 業 別	自営業	44	43	8.9	97.7
	常 勤	193	185	38.2	95.9
	パート・アルバイト	71	68	14.0	95.8
	主 婦	94	92	19.0	97.9
	学 生	23	21	4.3	91.3
	無 職	75	75	15.5	100.0
居住地域別	東京都区部	344	334	69.0	97.1
	東京都市町村部	156	150	31.0	96.2

※ 集計結果は百分率 (%) で示し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。

そのため、合計が 100.0%にならないものがある。

※ n (number of cases) は、比率算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。

※ 複数回答方法・・・(MA) = いくつでも選択、(3MA) = 3 つまで選択、(2MA) = 2 つまで選択

自然界は、食料・水・木材・燃料の供給、気温や温度の安定、水質の浄化、うるおいややすらぎの付与、生きものの生息場所の確保など、様々な恵みを私たちにもたらしており、これらの自然の恵みは、地球規模の生物多様性※1の絶妙なバランスの上に成り立っています。

しかし、人間活動が与える負荷によって、そのバランスが崩れつつあります。今日の世界的な経済活動の拡大は、自然環境の開発に伴う生物多様性の損失のみならず、新型コロナウイルス感染症のような未知の人獣共通感染症※2を引き起こす可能性も高めており、生物多様性の保全に向けた取組は一層重要となっています。

また、都市化が進んだ東京では、全面積のおよそ半分が商業地や住宅地などの市街地となっており、私たちに様々な恵みをもたらす自然地※3や緑の減少が顕著になっています。

そこで、今後の生物多様性関連施策の検討及び推進の参考とするため、生物多様性や自然環境の保全、自然との関わり方について、都政モニターの皆さまのご意見をお伺いします。

※1 生物多様性：様々な「自然」があり、そこに特有の「個性」を持つ生きものがいて、それぞれの命がつながりあっていることをいいます。

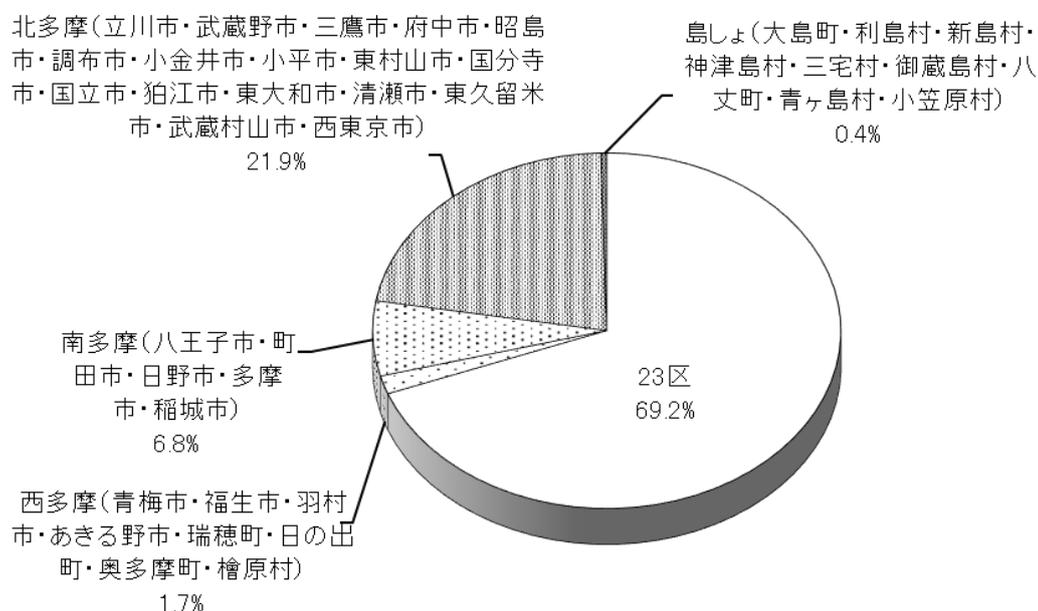
※2 人獣共通感染症：狂犬病や高病原性鳥インフルエンザなど、人と動物の共通感染症のことです。

※3 自然地：樹林地、草地、農地、池沼等又はこれに類する状態にある土地をいいます。

## 住まいの所在地

Q1 あなたが現在お住まいの地域を選んでください。

(n=484)



### 【調査結果の概要】

住まいの所在地について聞いたところ、「23区」(69.2%)が7割近くで最も高く、以下、「北多摩」(21.9%)、「南多摩」(6.8%)などと続いている。

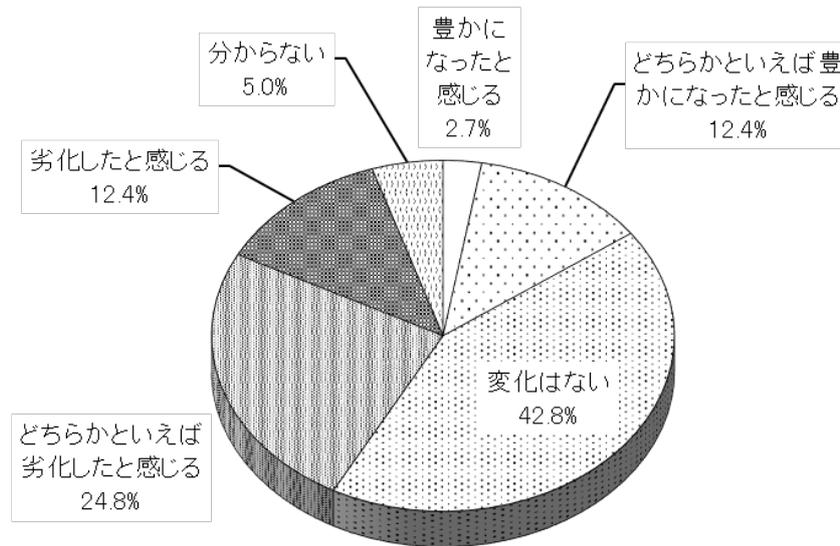
## 身近な自然環境の変化

Q2 あなたは、お住まいの周辺地域の自然環境が、以前と比べてどのような変化があったと感じますか。

<参考イメージ>

- ・豊かになった自然環境：緑地の増加、在来の動植物の増加、動植物の希少種の増加など
- ・劣化した自然環境：緑地の減少や荒廃、外来の動植物の増加、動植物の希少種が減少など

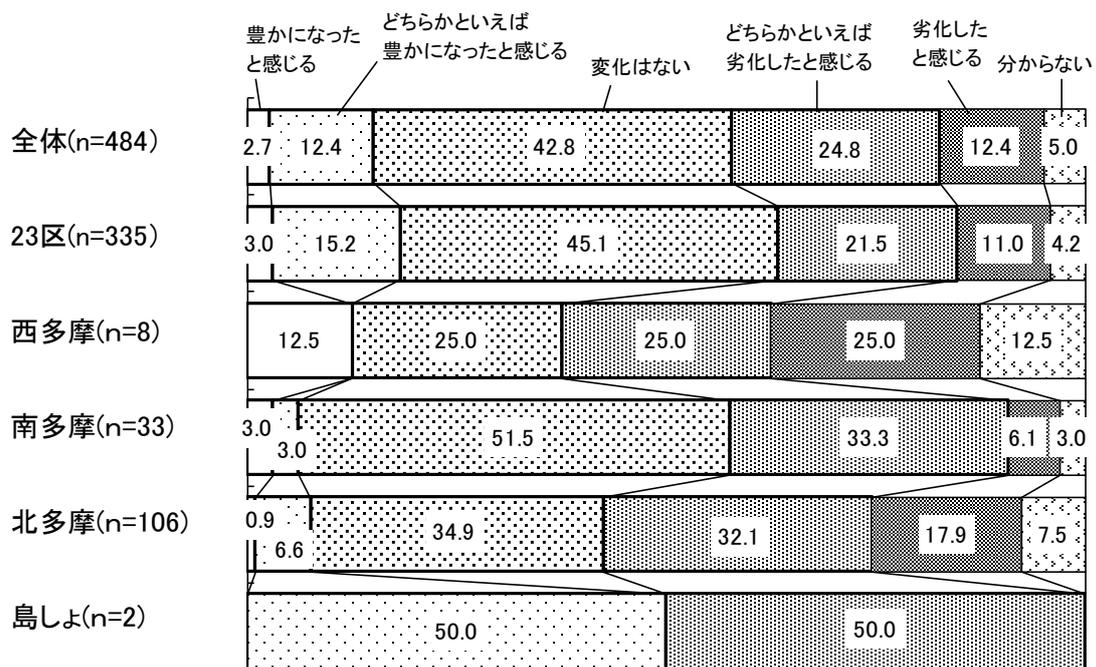
(n=484)



### 【調査結果の概要】

身近な自然環境の変化について聞いたところ、「変化はない」(42.8%)が約4割で最も高く、以下、「どちらかといえば劣化したと感じる」(24.8%)、「どちらかといえば豊かになったと感じる」(12.4%)、「劣化したと感じる」(12.4%)などと続いている。

### ◎ 住まいの所在地別と身近な自然環境の変化



## 身近な自然環境の変化の原因

Q3 あなたが、Q2 のように回答した理由は何ですか。あなたのお考えをお書きください。

(n=484)

### ◎主な理由

#### (1) 豊かになったと感じる (13 件)

- 自然が増えたと感じます。普段歩く歩道に植木があることが当たり前を感じるようになりました。また、その自然(植木植物)が枯れていないことが素晴らしく、気持ちが良いと思います。(女性 20代 品川区)
- 水がきれいになり、東京湾にも魚が戻ってきた。緑化活動も盛んで、都心の屋上にも庭園が増え、都会でも動物や鳥が見られる。(女性 60代 世田谷区)

#### (2) どちらかといえば豊かになったと感じる (60 件)

- 以前より虫や爬虫類両生類(トカゲ・カエルなど)を見かけるようになった。野鳥(サギ・チドリ・ヒヨドリなど)も増えたように感じる。(女性 50代 新宿区)
- 公園やオフィス街に緑化スペースが増え、川の水も嫌な臭いや濁りが消え、魚も戻ってきたように感じています。(男性 50代 中野区)

#### (3) 変化はない (207 件)

- 周りは都心のビル群で、大きな公園や自然を感じられる所があまりないから。(女性 30代 港区)
- 東大和市は、従来より自然環境は豊かで緑も樹木も多く、公園も含めてよく管理されてきています。畑がなくなり宅地化されてきてはおりますが、全体的には大きな変化はなく自然環境の良さは維持されてきております。(男性 70歳以上 東大和市)

#### (4) どちらかといえば劣化したと感じる (120 件)

- 宅地化が進行して、キジやタヌキなどを見かける機会が減少した。(男性 60代 稲城市)
- 宅地化が進み、樹木や自然の草花、公園で鳴いていたセミやカエルなどの動物を見かけることも少なくなった。(女性 70歳以上 杉並区)

#### (5) 劣化したと感じる (60 件)

- 周囲のいわゆる雑木林や農地が次々と宅地化されていて、目に見えて緑が減ってきていると感じます。(男性 40代 小平市)
- 生産緑地や市民農園の宅地化が進み、鎮守の森なども減少しており、緑や土壌が見える地域が減少し、生物の棲み処が失われているから。(男性 70歳以上 練馬区)

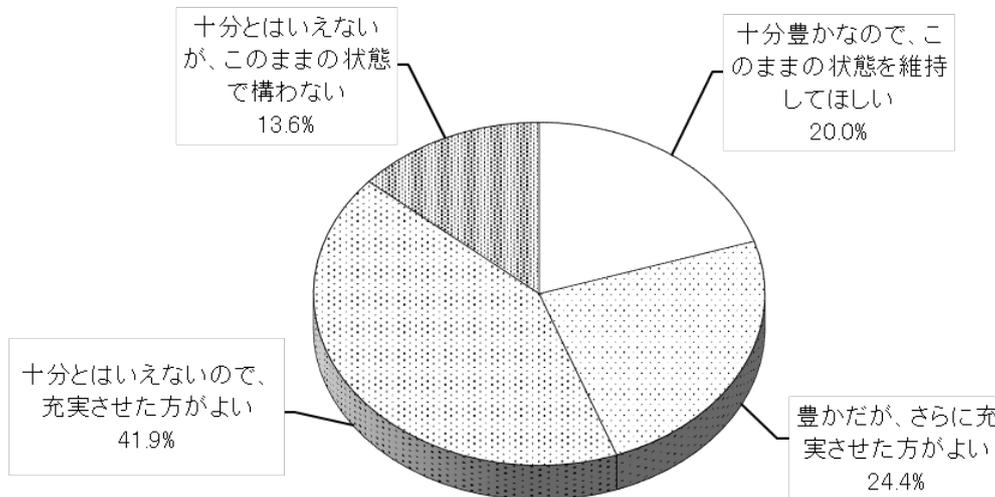
#### (6) 分からない (24 件)

- 意識する機会がほとんどない。大規模開発の敷地周りの植林で緑を感じる程度である。(男性 50代 港区)
- 自宅の周りを歩き回る事があまりない、近くに公園がないので変化があまり良く分からない。(女性 50代 練馬区)

## 住まい周辺の自然環境のあるべき姿

Q4 あなたは、お住まいの周辺の身近な自然とあるべき自然の姿の水準についてどのように感じますか。

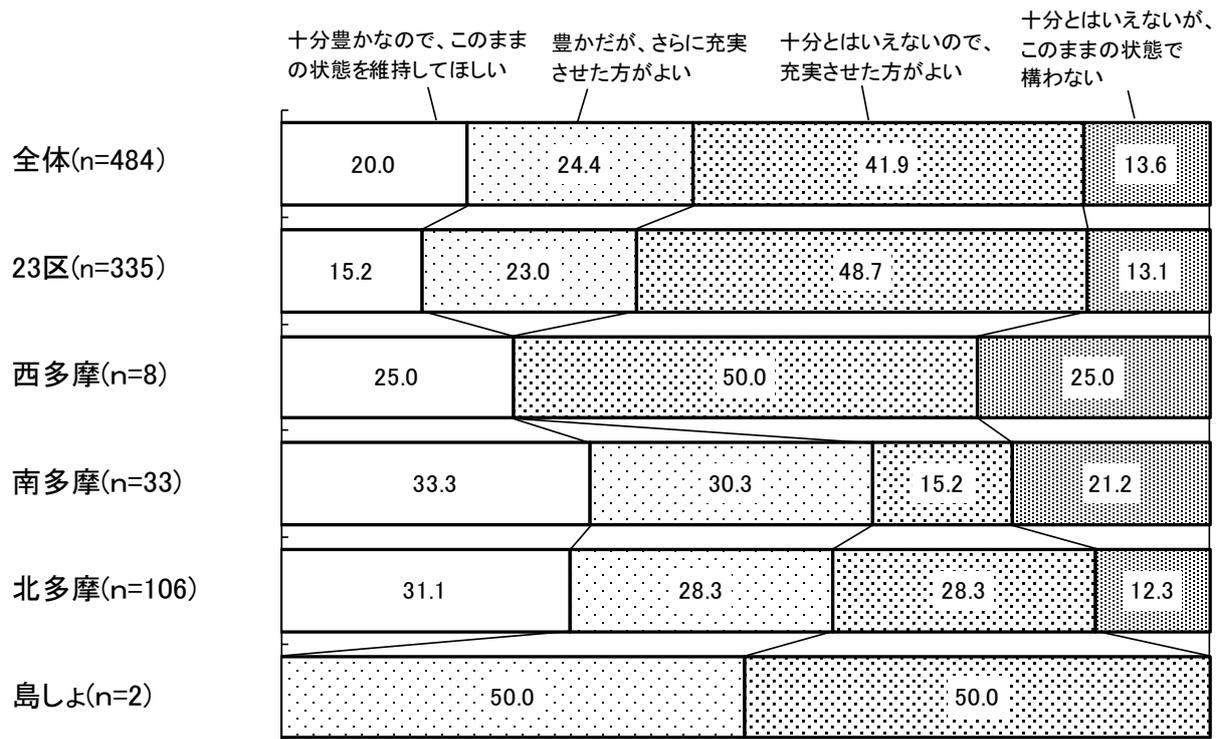
(n=484)



### 【調査結果の概要】

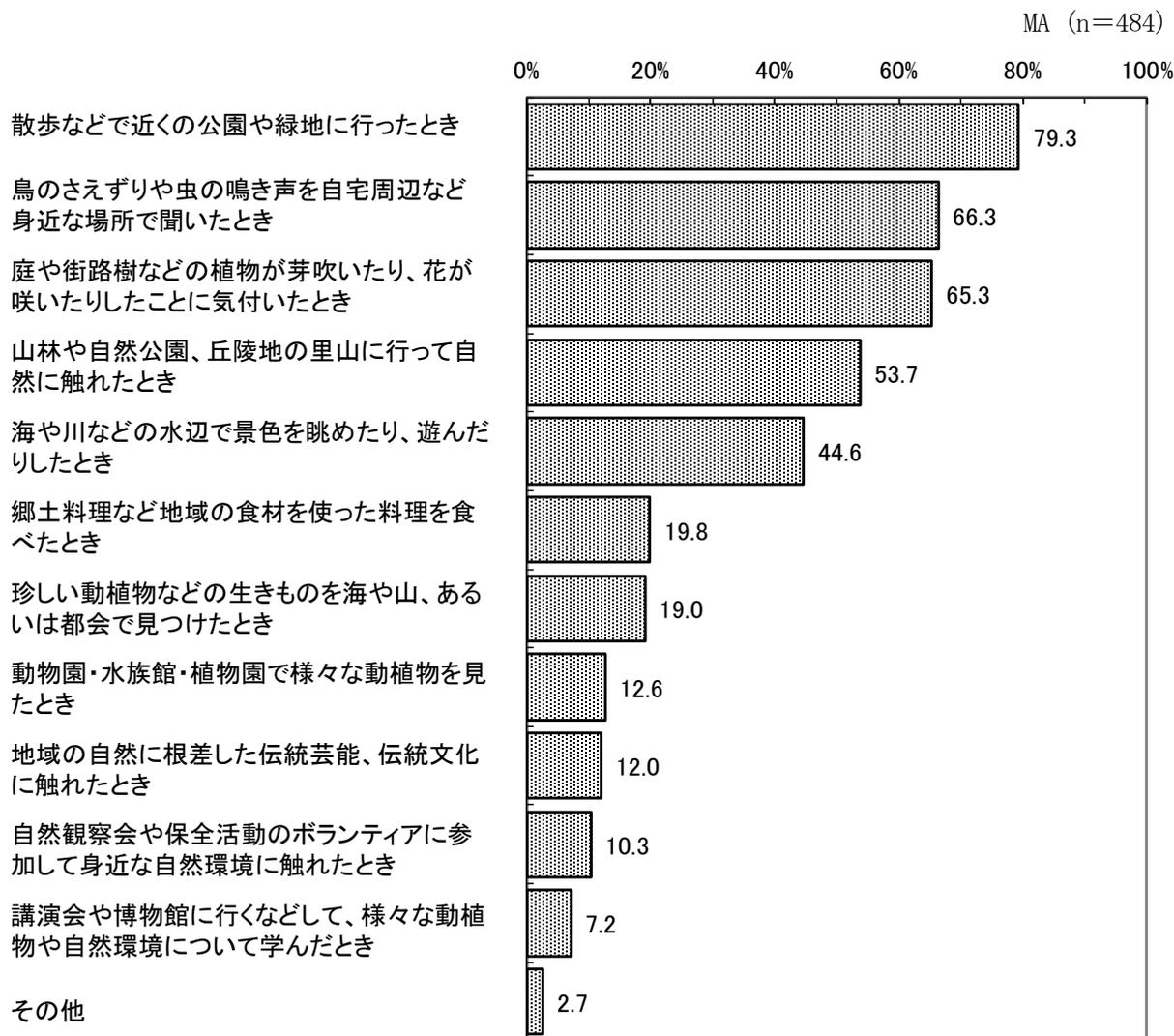
住まい周辺の自然環境のあるべき姿について聞いたところ、「十分とはいえないので、充実させた方がよい」(41.9%)が約4割で最も高く、以下、「豊かだが、さらに充実させた方がよい」(24.4%)、「十分豊かなので、このままの状態を維持してほしい」(20.0%)などと続いている。

### ◎ 住まいの所在地別と住まい周辺の自然環境のあるべき姿



## 日常生活の中で自然の恵みを感じる場面

Q5 あなたは、日常の生活の中でどのような場面に「自然の恵み」を感じますか。次の中からいくつでもお選びください。



### 【調査結果の概要】

日常生活の中で自然の恵みを感じる場面について聞いたところ、「散歩などで近くの公園や緑地に行ったとき」(79.3%)が8割近くで最も高く、以下、「鳥のさえずりや虫の鳴き声を自宅周辺など身近な場所で聞いたとき」(66.3%)、「庭や街路樹などの植物が芽吹いたり、花が咲いたりしたことに気付いたとき」(65.3%)などと続いている。



とのがやと  
殿ヶ谷戸庭園の紅葉 (国分寺市)



高尾山の登山道 (八王子市)

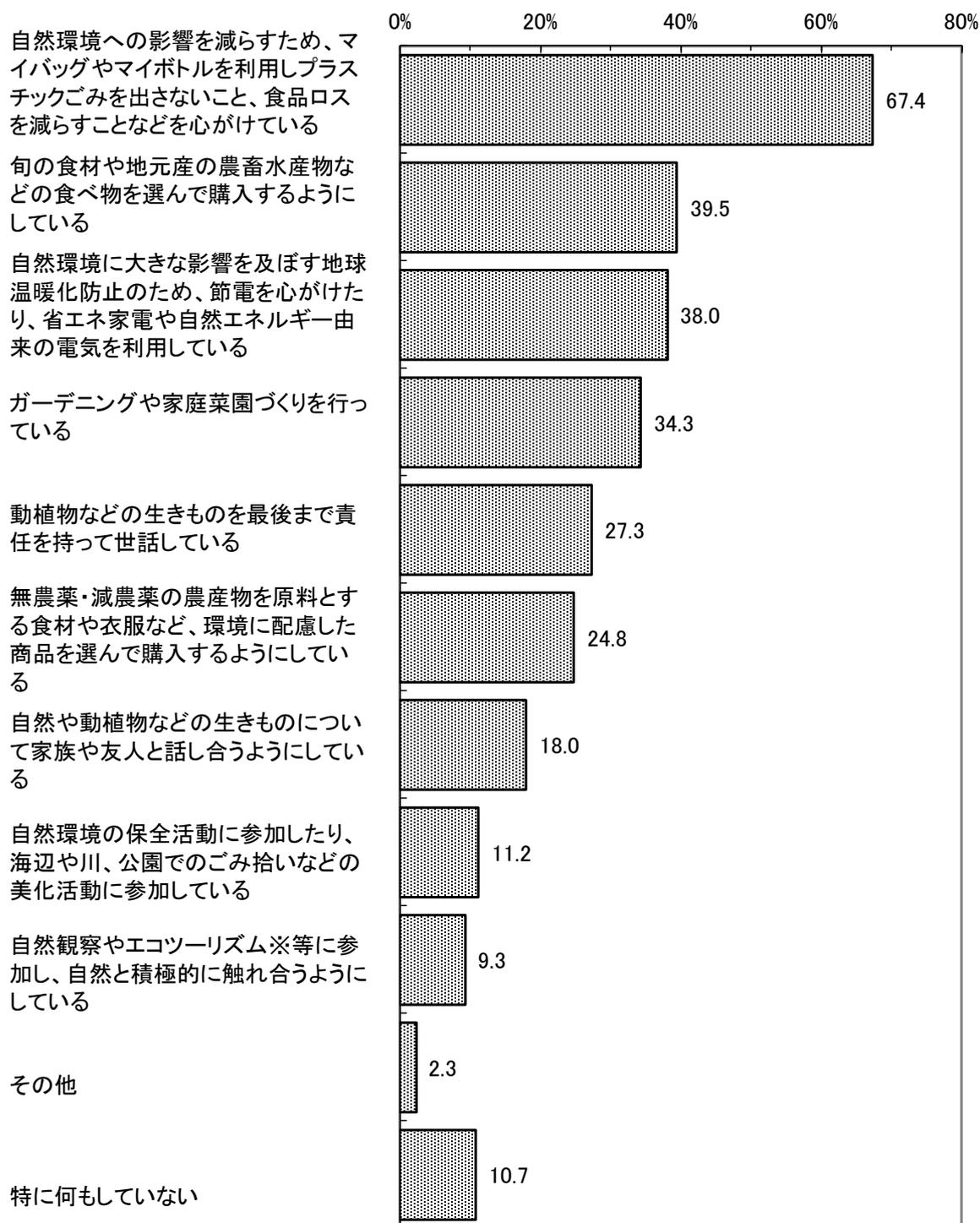


みたけ  
御岳溪谷 (青梅市)

## 自然環境や生きもののために日頃から心がけていること

Q6 あなたが自然環境や生きもののことを考えて、日頃から心がけていたり実践したりしていることはありますか。次の中からいくつでもお選びください。

MA (n=484)



※ エコツアーリズム：地域の自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光

### 【調査結果の概要】

自然環境や生きもののために日頃から心がけていることについて聞いたところ、「自然環境への影響を減らすため、マイバッグやマイボトルを利用しプラスチックごみを出さないこと、食品ロスを減らすことなどを心がけている」(67.4%)が7割近くで最も高く、以下、「旬の食材や地元産の農畜水産物などの食べ物を選んで購入するようにしている」(39.5%)、「自然環境に大きな影響を及ぼす地球温暖化防止のため、節電を心がけたり、省エネ家電や自然エネルギー由来の電気を利用している」(38.0%)などと続いている。



ずしおのじ  
函師小野路歴史環境保全地域（町田市）



夕やけ小やけふれあいの里（八王子市）



物産販売所「朝露」（あきる野市）

## 自然環境や生きものに関する情報

### <世界の生きものに関する情報>

生物多様性の専門家が参加する政府間組織は、グローバル評価報告書(2019年5月)※1において、「今後数十年で、約100万種の生物が絶滅するおそれがある」として、世界に警鐘を鳴らしました。この調査結果は、人間活動が「以前にも増して、生物種を脅かしている」とし、動植物群全体の約25%がぜい弱な状態にあるという事実に基づいています。

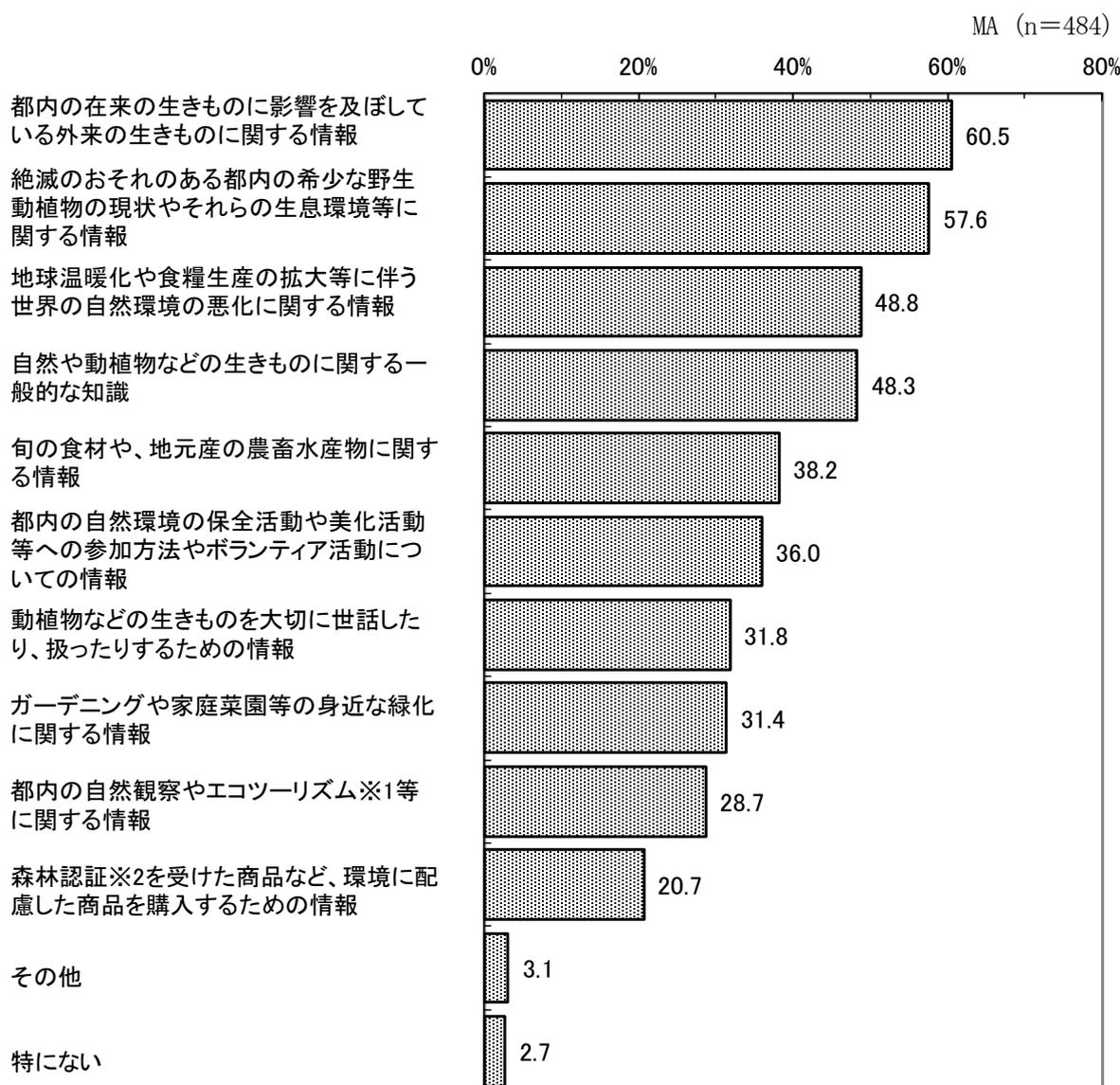
### <東京の自然環境に関する情報>

都は、2019年9月に2018年の「みどり率※2」を公表しました。調査結果によると、2013年の53.0%から2018年には52.5%と、東京のみどりが0.5ポイント減少していることが分かりました。

※1 生物多様性と生態系サービスに関するグローバル評価報告書 2019：国連環境計画（UNEP：環境分野における国連の主要な機関）により設立された生物多様性及び生態系サービスに関する政府間組織（IPBES）により公表

※2 みどり率：緑が地表を覆う部分に公園区域・水面を加えた面積が、地域全体に占める面積

Q7 あなたは、自然環境や生きもののことを考えて行動していく際に、どのような情報が必要だと思いますか。次の中からいくつでもお選びください。



※1 エコツアーリズム：地域の自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光

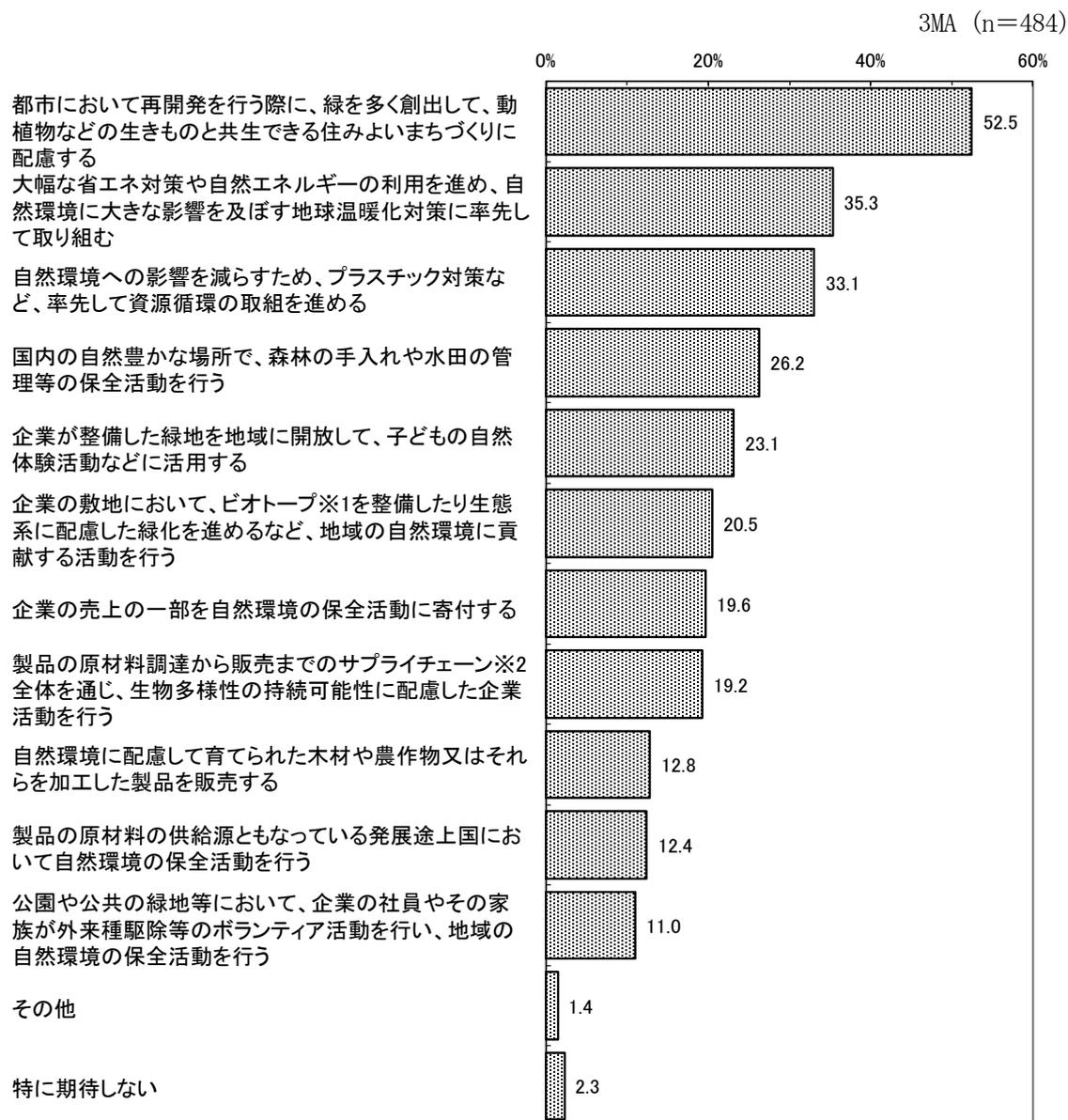
※2 森林認証：適切に管理された森林の木材とその木材から作られた製品であることを証明する認証

#### 【調査結果の概要】

自然環境や生きもののことを考えて行動していく際に、どのような情報が必要かについて聞いたところ、「都内の在来の生きものに影響を及ぼしている外来の生きものに関する情報」(60.5%)が約6割で最も高く、以下、「絶滅のおそれのある都内の希少な野生動植物の現状やそれらの生息環境等に関する情報」(57.6%)、「地球温暖化や食糧生産の拡大等に伴う世界の自然環境の悪化に関する情報」(48.8%)などと続いている。

## 自然環境や生きものに配慮した企業活動に期待すること

Q8 最近の環境配慮に取り組んでいる企業の多くは、SDGs（説明は次頁）を踏まえた、自然環境や生きものに配慮するなどの活動を行っています。こうした、企業が実際に行っている活動について、あなたが特に期待することは何ですか。次の中から3つまでお選びください。



※1 ビオトープ：特定の生物群集が生存できるような特定の環境条件を備えた生物生息空間

※2 サプライチェーン：商品が消費者に届くまでの原料調達から製造、物流、販売といった一連の流れをいう。

### 【調査結果の概要】

自然環境や生きものに配慮した企業活動に期待することについて聞いたところ、「都市において再開発を行う際に、緑を多く創出して、動植物などの生きものと共生できる住みよいまちづくりに配慮する」（52.5%）が約5割で最も高く、以下、「大幅な省エネ対策や自然エネルギーの利用を進め、自然環境に大きな影響を及ぼす地球温暖化対策に率先して取り組む」（35.3%）、「自然環境への影響を減らすため、プラスチック対策など、率先して資源循環の取組を進める」（33.1%）などと続いている。

<生物多様性とSDGsについて>

「SDGs (エスディージーズ) (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))」は、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を年限とする国際目標です。SDGsは持続可能な世界を実現するための17のゴールから構成され、すべての国々の共通目標となっています。この中でも、目標14「海の豊かさを守ろう」が海の生物多様性に、目標15「陸の豊かさを守ろう」が陸の生物多様性に、それぞれ密接に関わる目標として掲げられています。

また、下記の「SDGs ウェディングケーキモデル」※は、SDGsの概念を表す構造モデルで、自然の豊かさを示す生物多様性が、都民の生活や経済活動を下支えていることを端的に示しています。



【出所】Stockholm Resilience Centre

※ SDGs ウェディングケーキモデル：スウェーデンにあるレジリエンス研究所の所長ヨハン・ロックストローム博士が考案した“SDGsの概念”を表す構造モデル。SDGsの17目標はそれぞれ大きく3つの階層から成り、それらが密接に関わっていることを、ウェディングケーキの形になぞらえて表されています。

## 環境に配慮した消費行動

< (参考) エシカル消費について >

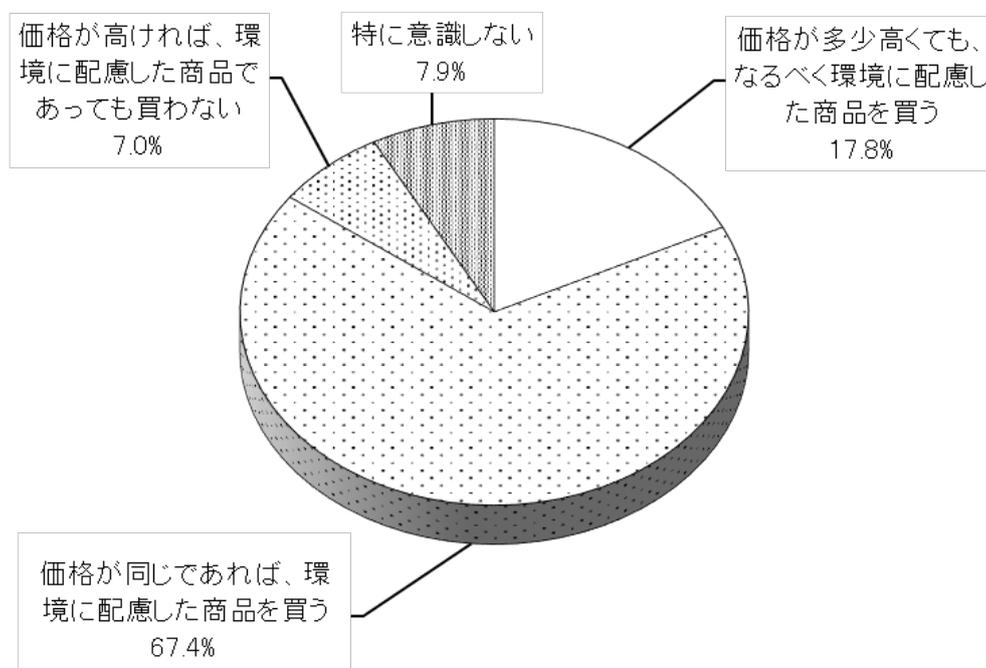
「人や社会、環境に配慮した消費行動」のことを「エシカル（倫理的）消費」といいます。

○エシカル消費に関連する認証ラベル・マーク（東京都生活文化局ホームページ）

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/manabitai/ethical/label.html>

Q9 近年では、積極的に環境に配慮したことをPRする商品を作っている企業が増えてきています。あなたは、環境に配慮した商品を買う際の価格について、どのように考えますか。当てはまるものをお選びください。

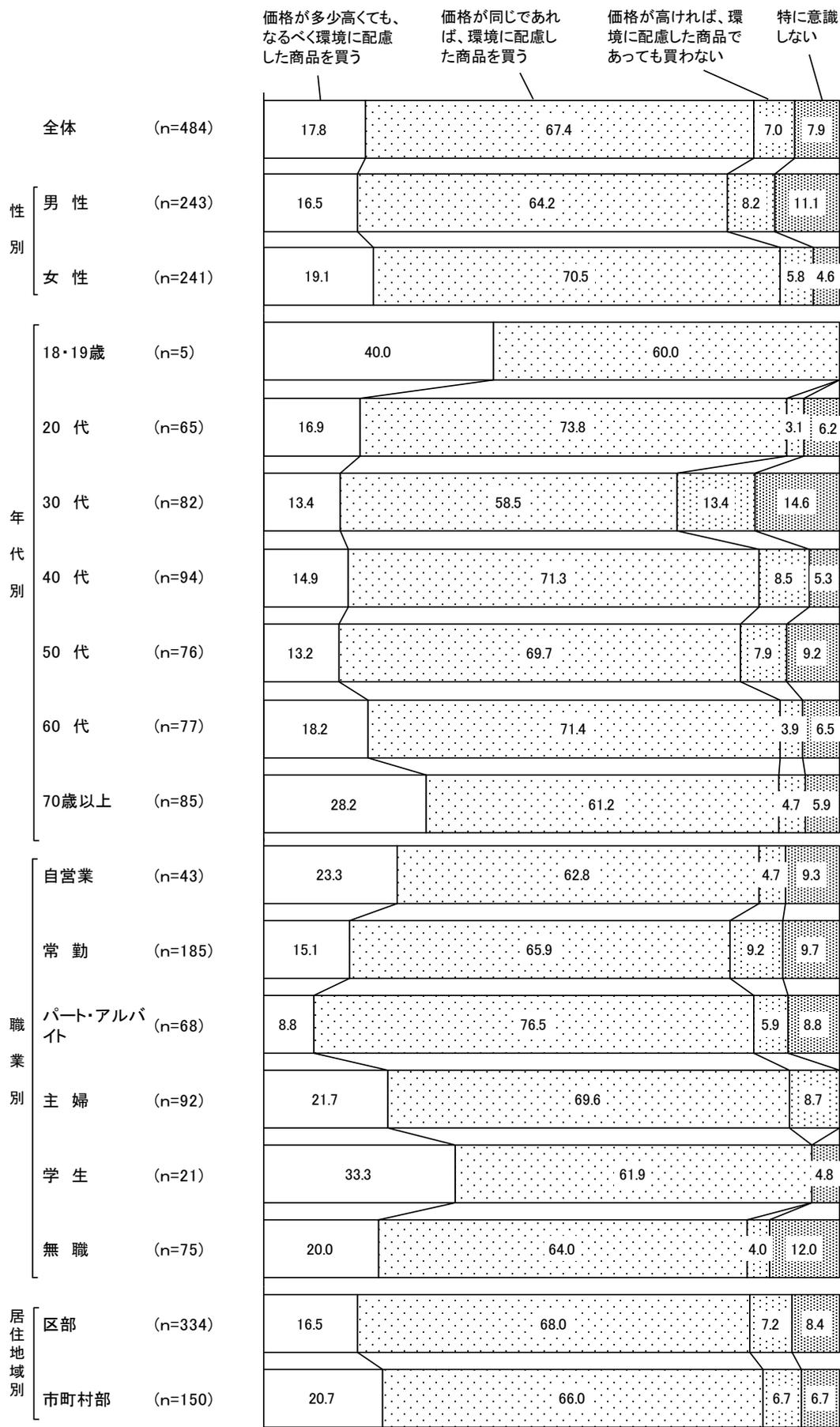
(n=484)



### 【調査結果の概要】

環境に配慮した消費行動について聞いたところ、「価格が同じであれば、環境に配慮した商品を買う」(67.4%)が7割近くで最も高く、以下、「価格が多少高くても、なるべく環境に配慮した商品を買う」(17.8%)、「特に意識しない」(7.9%)、「価格が高ければ、環境に配慮した商品であっても買わない」(7.0%)の順となっている。

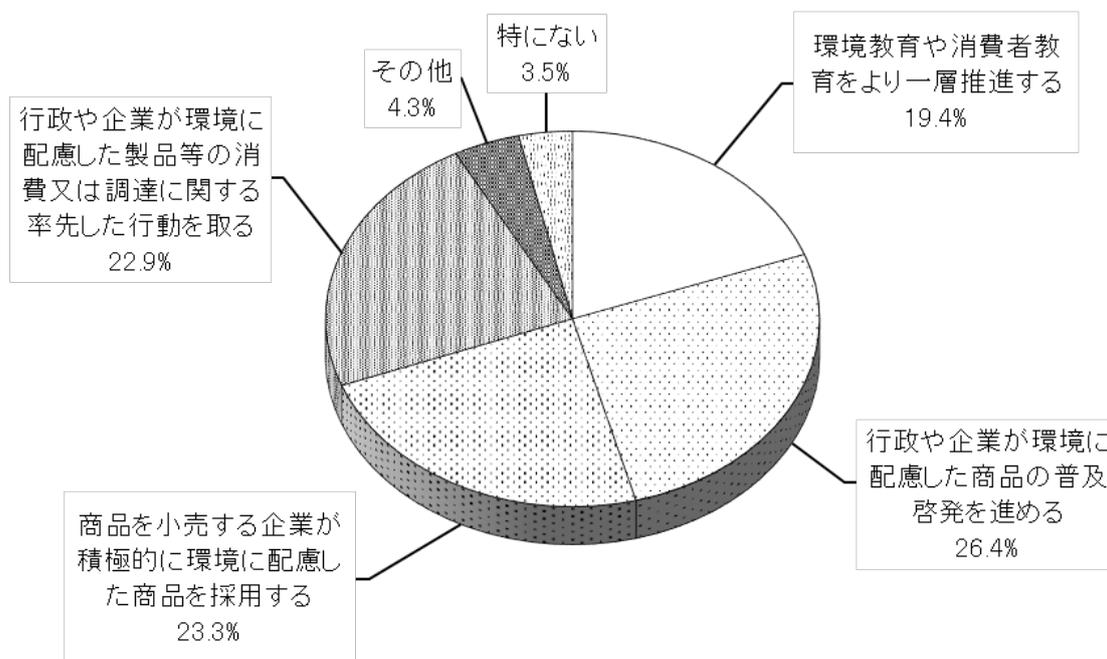
◎環境に配慮した消費行動（属性別）



## 環境に配慮した商品への関心

Q10 どのような取組を行うことで環境に配慮した商品の利用が進むと思いますか。

(n=484)

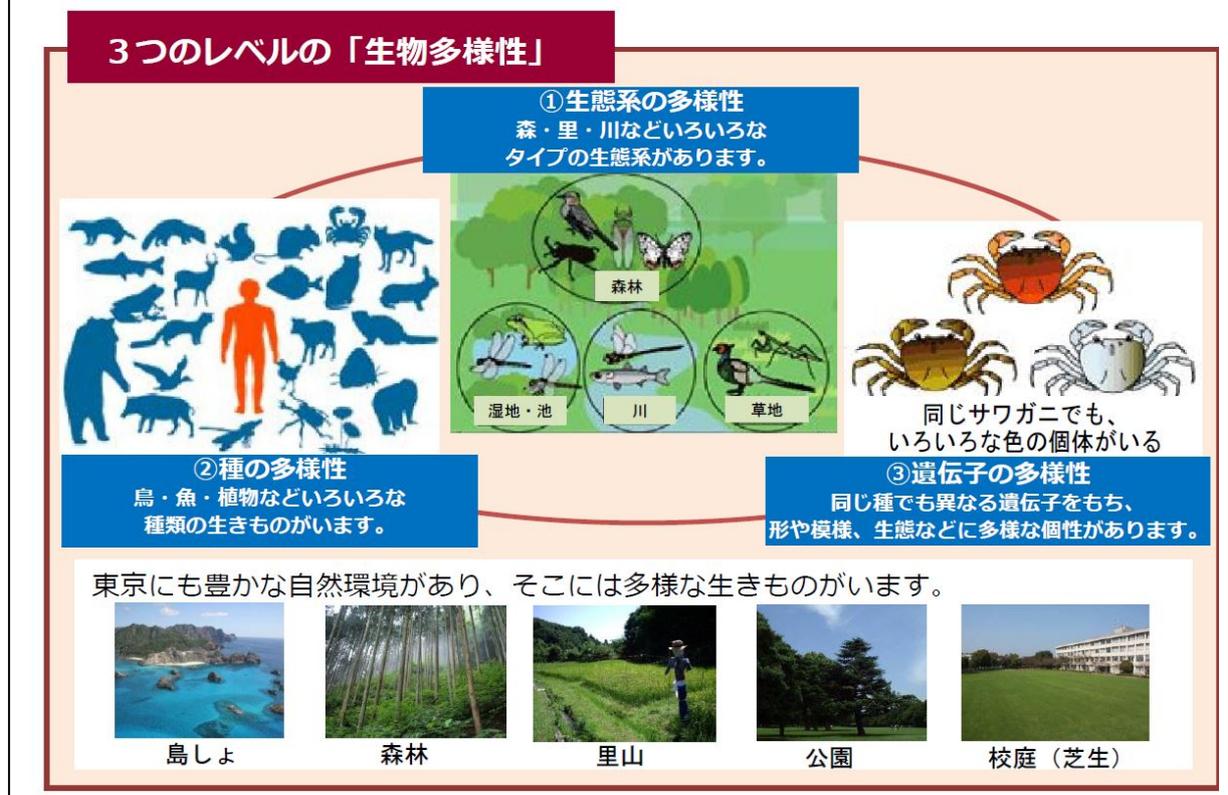


### 【調査結果の概要】

環境に配慮した商品の利用が進む取組について聞いたところ、「行政や企業が環境に配慮した商品の普及啓発を進める」(26.4%)で最も高く、以下、「商品を小売する企業が積極的に環境に配慮した商品を採用する」(23.3%)、「行政や企業が環境に配慮した製品等の消費又は調達に関する率先した行動を取る」(22.9%)などと続いている。

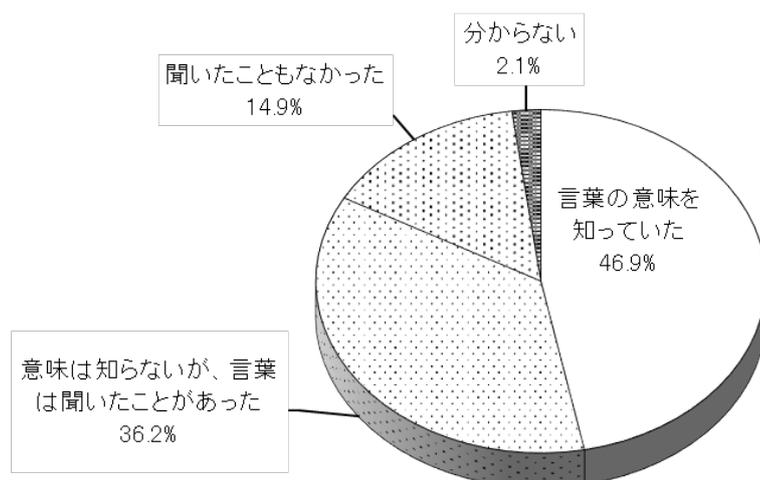
## 「生物多様性」という言葉の認知度

「生物多様性」とは、様々な自然があり、そこに特有の個性を持つ生きものがいて、それぞれの命がつながりあっていることをいい、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の3つのレベルの多様性があるとされています。



Q11 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていましたか。

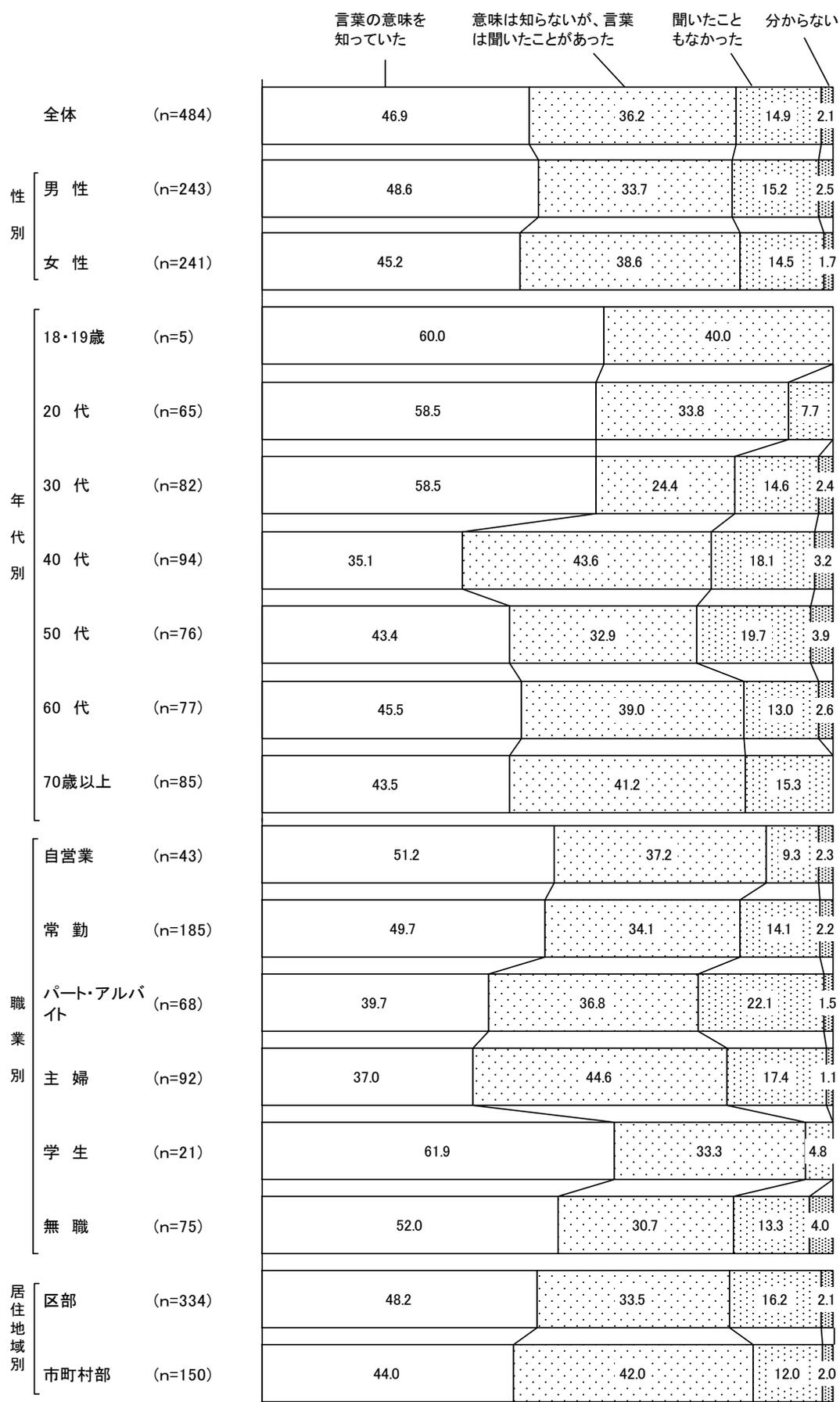
(n=484)



### 【調査結果の概要】

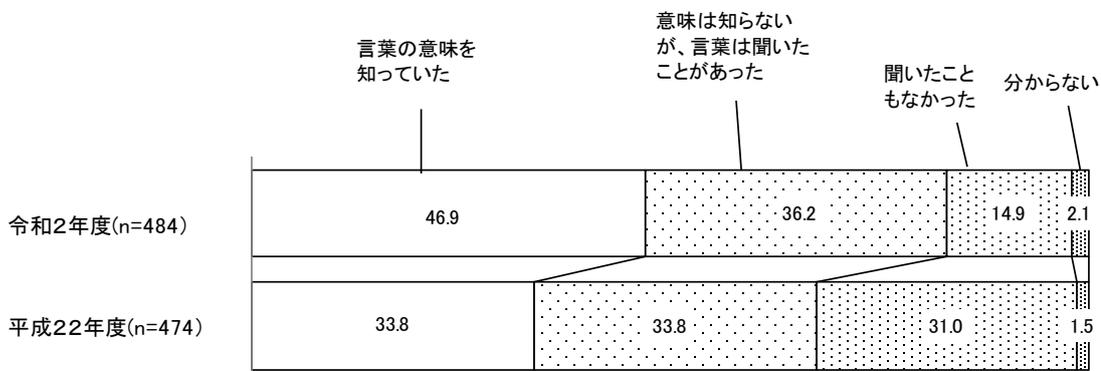
「生物多様性」という言葉の認知度について聞いたところ、「言葉の意味を知っていた」(46.9%)が5割近くで最も高く、以下、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」(36.2%)、「聞いたこともなかった」(14.9%)、「分からない」(2.1%)の順となっている。

◎ 「生物多様性」という言葉の認知度（属性別）



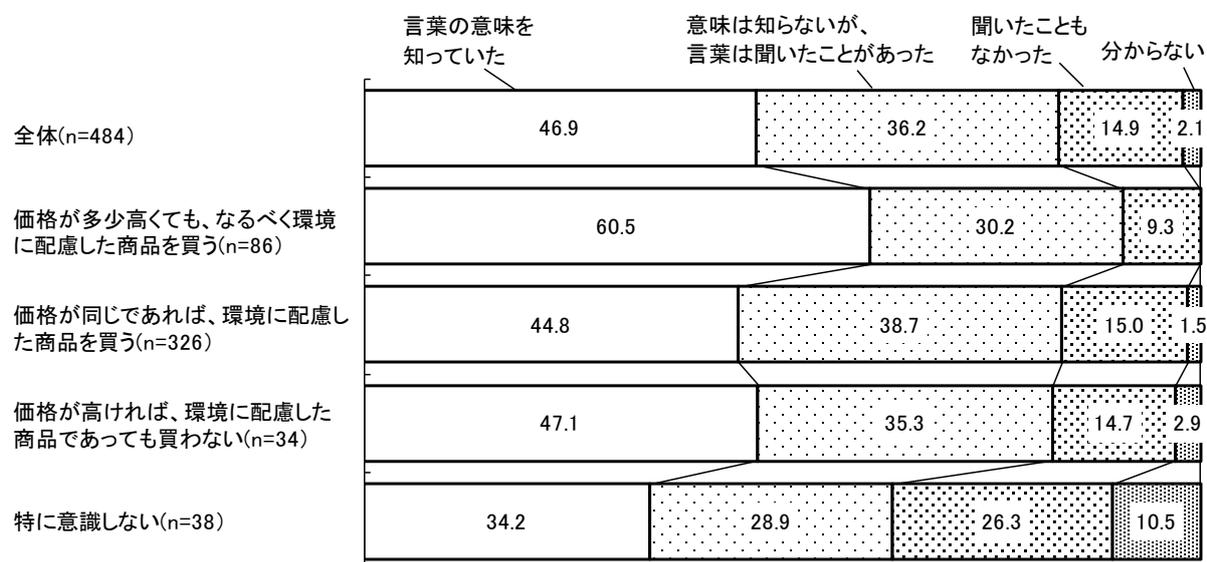
前回調査との比較では、「言葉の意味を知っていた」が13.1ポイント、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがあった」が2.4ポイント、それぞれ増加した。

◎前回調査との比較



※ 前回調査 平成22年9月実施「生物多様性について」

◎環境に配慮した消費行動と「生物多様性」という言葉の認知度

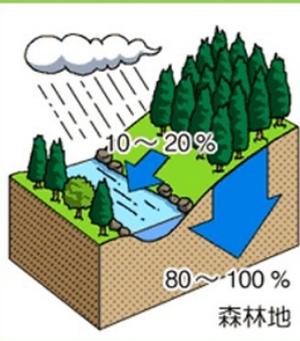


## 「生物多様性」の普及

### ＜生態系サービスについて＞

私たちは、生物多様性から様々な恵みを享受して生活しています。生物多様性から得られる様々な恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、以下の4つのサービスに分類されます。生物多様性の損失に伴って、私たちはこれまで享受していた生態系サービスを将来同じようには受けられなくなる可能性があります。

都は生物多様性の重要性について、理解促進を図っています。

<p><b>供給サービス</b></p> <p>日々の暮らしに必要となる食料、木材、水資源、薬用資源等を供給する機能</p> 	<p><b>調整サービス</b></p> <p>気候の調整や大雨被害の軽減、水質の浄化など、健康で安全に生活するために必要な環境を調整する機能</p> 	<p><b>文化的サービス</b></p> <p>生きものや地域の風土等の自然環境から、芸術的・文化的インスピレーション、教育的効果や心身の安らぎなど、人間が自然に触れることにより生じる心理的効果や人間が自然に触れる機会をもたらす機能</p> 
<p><b>基盤サービス</b></p> <p>光合成による酸素の生成、土壌形成、栄養循環など、人間を含めた全ての生命の生存基盤となり、上記3つのサービスを支える機能</p> 		

○みんなで学ぶ、みんなで守る生物多様性-Biodiversity（環境省ホームページ）

[http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/biodiv\\_service.html](http://www.biodic.go.jp/biodiversity/about/biodiv_service.html)

Q12 都は、生物多様性の普及啓発を図っています。そこで、どのようにすれば「生物多様性」の重要性について、一層の理解と普及が進むと思いますか。あなたのお考えを自由にお書きください。

(n=457)

◎「生物多様性の普及」に関する主な意見

○ やはりこれからの時代を支えていくのは子供だから、子供に向けた発信を重点的に行うべきだと思う。子供の頃に触れたものは、大人になっても根付いていたりするので、親子向けに体験教室を開いたり、今ならオンライン通話を使って中高生向けに講演会をやったりすればいいと思う。私は20代なので、市の子供向けの取組に当てはまらず、何かを知りたいと思っても、なかなか参加できる機会がないので、20代、30代など働いている人に向けての機会も作ってほしい。

(女性 20代 国分寺市)

○ 例えば、高尾山、奥多摩だけでなく、地域の公園で、自然と触れ合う方法や、その自然を解説した立て看板などがあるといいと思いました。クイズ形式でもいいかもしれません。できればペーパーレスの時代、パンフレットは控えて、位置情報サービスと連動したアプリなどがあってもいいかもしれないです。例えば、自然環境のクイズが入ったスタンプラリーなど。

(女性 30代 江東区)

○ 図書館や本屋さんなどで、生物多様性のコーナーがあると本が手に取りやすくなるので、生物多様性について知ることができるのではないかと思います。生物多様性の絵本などがあると子供にも分かりやすいと思います。生物多様性がどのようなものなのか紹介するテレビの番組があるとよいと思いました。生物多様性という言葉が、難しそうなものというイメージがあるので、言葉を使って説明するよりも、動画や写真、イラストなどを使って説明する方が分かりやすいと思いました。生物多様性について、情報を得ることができるサイト、どのようなサイトがあるのか知ることができるとよいと思いました。

(女性 30代 練馬区)

○ 幼稚園、保育園、小学校等で企業とコラボレーションした啓発イベントを行い、併せて、宿題に取り入れたりして家庭でも共有し、考えてもらうような仕組みにする。役所の順番待ちの紙の裏とか、何かの発行物の裏とか、余っているスペースを使って、そういう啓発や、ワンセンテンスの情報、解説などを載せて、きっかけにしてみよう。

(女性 30代 練馬区)

○ 小中学生、高校生において、しっかりと座学、体験両方で授業を行う。これは理科ではなく、総合等で行い、今までよりも細かく教える。その一環として食育もしっかりと行い、残さず食べる事の重要性、命を頂く大切さを、多様性の1つとして教える。自然の中での観察や体験を増やし、これからの世代を育てて、親も勉強させるようにする。近くの図書館等で展示を行い、何となくでも市民の目に入るようにする。職場にポスターを貼る等も効果があるかも。

(男性 30代 西東京市)

○ 私も含め、生物多様性という言葉は聞いたことがあっても内容の理解と普及がそこまでできていないから、意識できない部分があると思う。言葉と共に理解を普及させるには、アナウンスの拡大が必要だと思う。学校教育、公園、観光地、作物の販売店など、生物多様性は、自然環境と密に接する場所、場面でのアナウンスでないと、実感や関心が起きないと思う。方法としては、パンフレットや看

板、館内放送、観光地での道の駅などの施設内での遊びを利用した、入り口の低い、楽しみながら理解を進める形は普及できるのではと思う。

(女性 40代 杉並区)

- 生物多様性の上に生活が成り立っている、と実感している人は少ないと思います。特に若い人の目につくよう、企業が環境に配慮した取組をインターネットやCM等でPRするとよいと思います。行政でイベントを催し、ニュースで取り上げてもらおうと、より多くの人に関心を持つのではないのでしょうか。

(女性 50代 世田谷区)

- 商業施設、市民が利用する公共施設、駅頭等で、パネル展示や実演、トークショー、ワークショップ等で、五感に訴える啓発活動を行い、参加者や来場者に粗品を提供して意識を持ってもらう。学校の総合学習などで、地域の自然や環境に親しむ取組を、地域住民と共に開催する。

(男性 50代 国分寺市)

- 日々消費する食料品や日用品について、生物多様性を重視した商品の理解・普及を図ることが重要だと考えます。消費者の理解を深めるためにも、影響力のある大型スーパーの取組を求めます。

(男性 60代 中央区)

- 都民誰もが日常的に利用する小売店（スーパー、ドラッグストア、ホームセンターなど）に協力してもらって、啓発活動を行ったらどうか。

(女性 60代 羽村市)

- 生物多様性の認識不足から生じた過去の失敗例、例えば森林伐採より発生した洪水の例などを、より具体的な事例を用いて、広く普及啓発を行っていくことが効果的だと考えます。

(男性 70歳以上 墨田区)

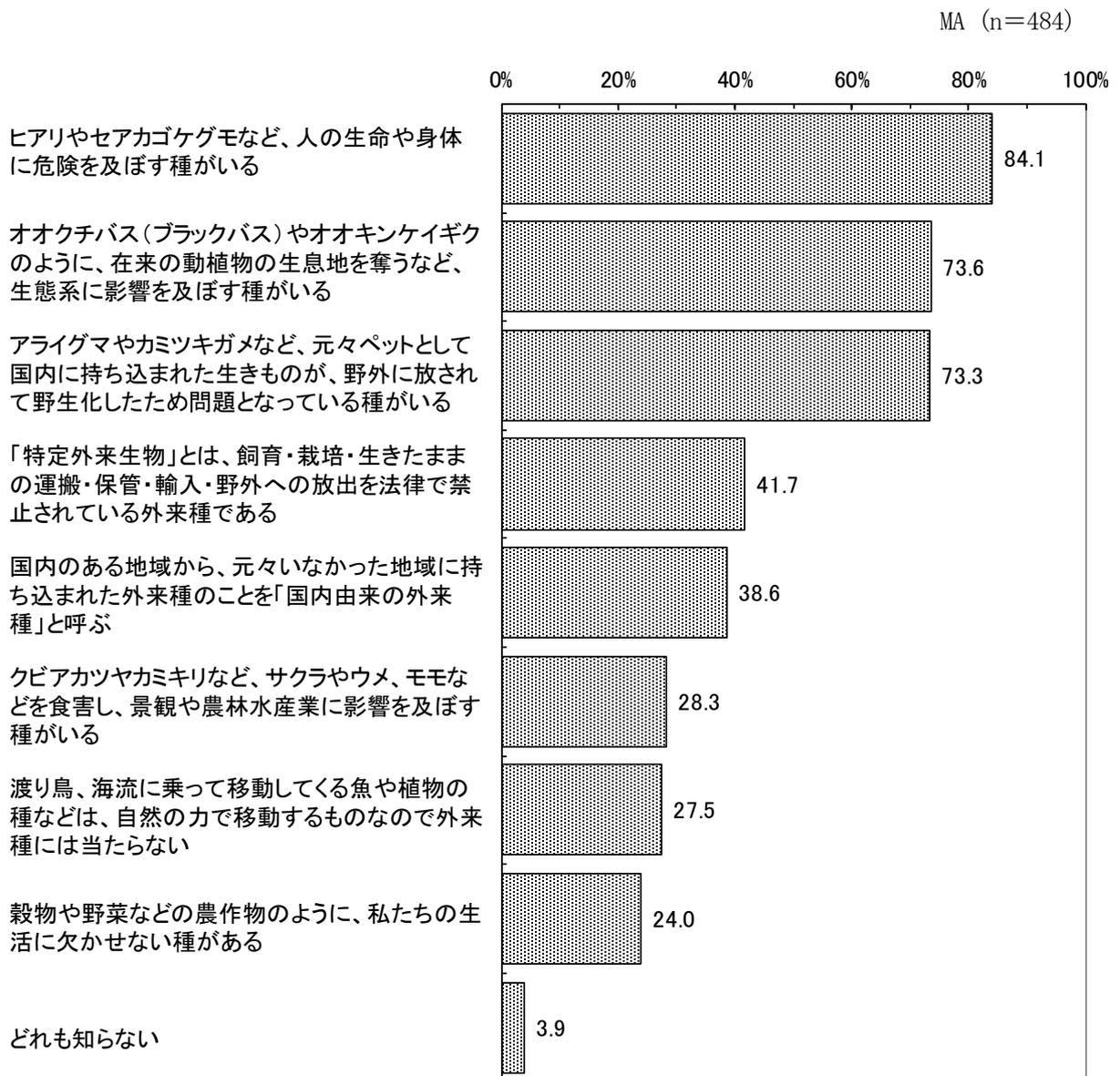
- 大人は自分の生活パターンが固定していることが多いので、子供への教育が大切だと思う。生物の多様性が保たれていることで受けている恩恵だけでなく、もし多様性が損なわれた場合、身近にどんな影響を受けるのか、例えば、身の回りから消えてしまう昆虫、植物、食材など具体的な例を挙げて示す。それらを守るために必要な行動、例えばペットボトルの使用を減らす、合成洗剤を使わない等、具体的な生活様式を教える。

(女性 70歳以上 稲城市)

## 外来種について

元々その地域にいなかったのに、人為的に他の地域から入ってきた生きもののことを「外来種」と呼びます。

Q13 あなたは、外来種について、どのようなことを知っていますか。次の中からいくつかでもお選びください。



### 【調査結果の概要】

外来種について聞いたところ、「ヒアリやセアカゴケグモなど、人の生命や身体に危険を及ぼす種がいる」(84.1%)が約8割で最も高く、以下、「オオクチバス(ブラックバス)やオオキンケイギクのように、在来の動植物の生息地を奪うなど、生態系に影響を及ぼす種がいる」(73.6%)、「アライグマやカミツキガメなど、元々ペットとして国内に持ち込まれた生きものが、野外に放されて野生化したため問題となっている種がいる」(73.3%)などと続いている。



オオクチバス※1



オオキンケイギク※1



ヒアリ※1



セアカゴケグモ※1



クビアカツヤカミキリ※2



アライグマ※1



カミツキガメ※1

<写真の出典> ※1：環境省ホームページ

※2：国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

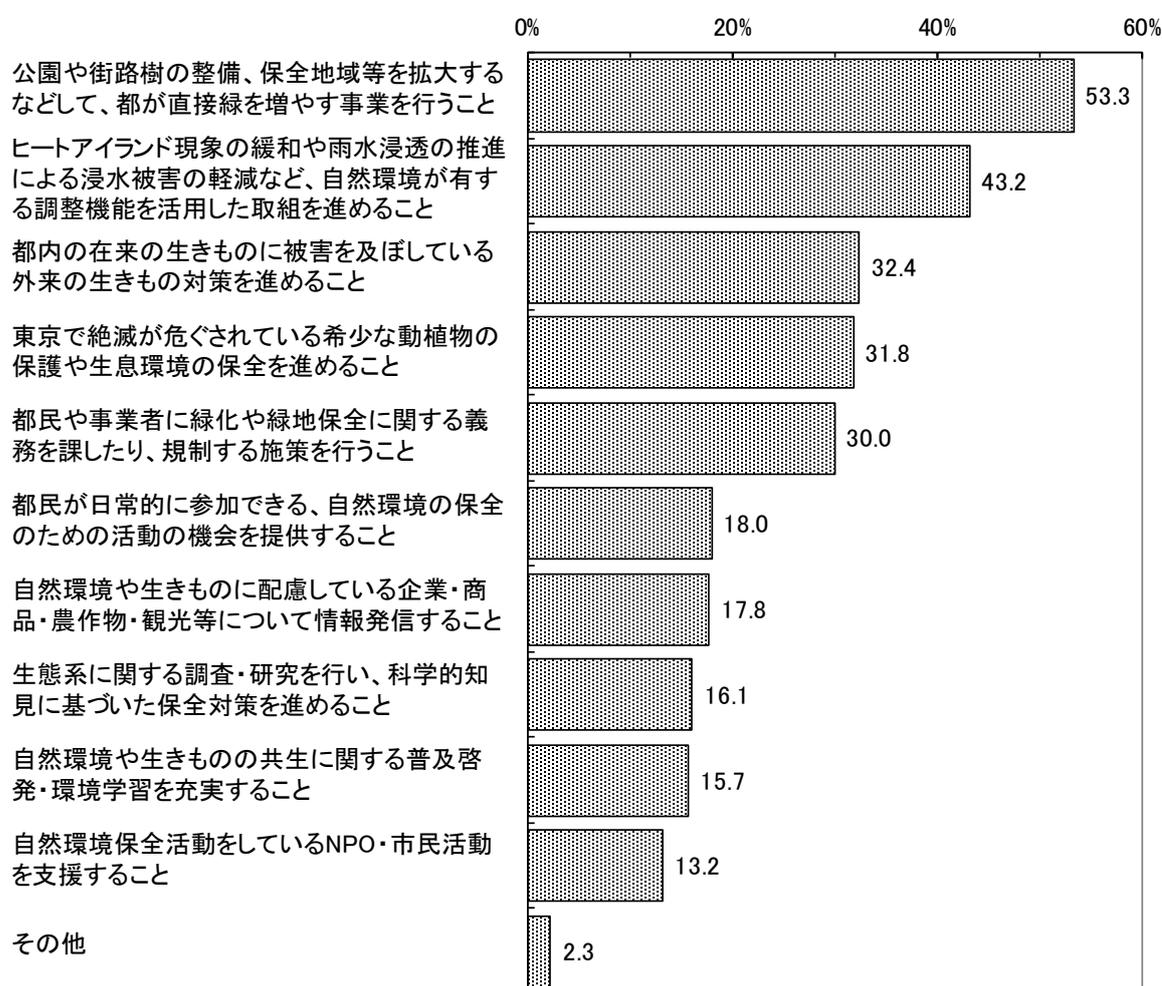
## 都に力を入れてほしい取組

<生物多様性条約締約国会議（COP）について>

生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）が、2021年に開催され、新たな生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国際目標が定められる予定となっています。この目標を踏まえて、我が国の次期生物多様性国家戦略が策定される予定となっており、都としてもこれらを踏まえ、都の「生物多様性地域戦略」を改定していく予定です。

Q14 気候変動による自然災害の大型化など様々な問題が懸念される中、東京の生物多様性を保全し、持続可能な生活を築いていくために、あなたが都に対し、特に力を入れてほしいと思うことを次の中から3つまでお選びください。

3MA（n=484）



※ ヒートアイランド現象：郊外に比べ、都市部ほど気温が高くなる現象。

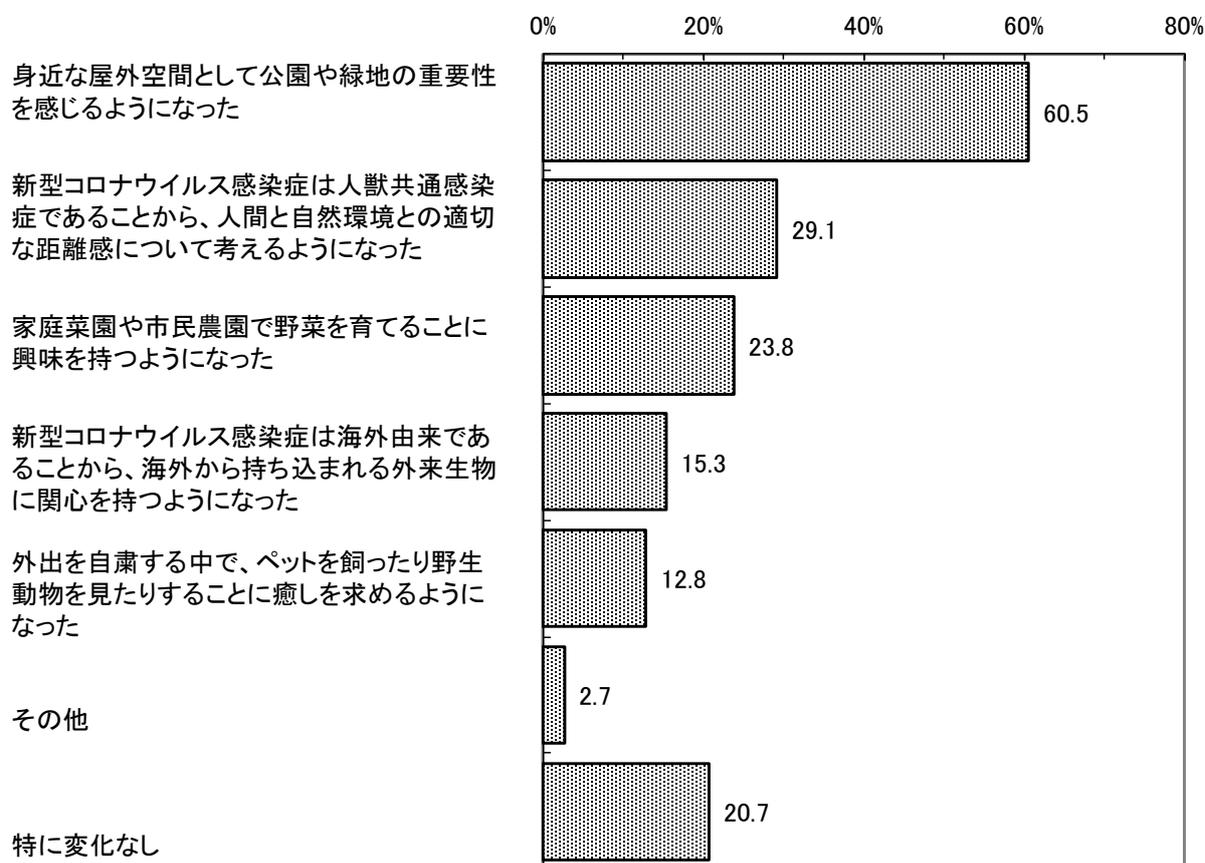
### 【調査結果の概要】

都に力を入れてほしい取組について聞いたところ、「公園や街路樹の整備、保全地域等を拡大するなどして、都が直接緑を増やす事業を行うこと」(53.3%)が約5割で最も高く、以下、「ヒートアイランド現象の緩和や雨水浸透の推進による浸水被害の軽減など、自然環境が有する調整機能を活用した取組を進めること」(43.2%)などと続いている。

## 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識の変化

Q15 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、以前に比べて自然環境に関する意識にどのような変化がありましたか。次の中からいくつでもお選びください。

MA (n=484)



### 【調査結果の概要】

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識の変化について聞いたところ、「身近な屋外空間として公園や緑地の重要性を感じるようになった」(60.5%)が約6割で最も高く、以下、「新型コロナウイルス感染症は人獣共通感染症であることから、人間と自然環境との適切な距離感について考えるようになった」(29.1%)、「家庭菜園や市民農園で野菜を育てることに興味を持つようになった」(23.8%)などと続いている。

## 自由意見

Q16 都における生物多様性の保全と持続可能な利用に関する問題について、あなたのお考えを自由にお書きください。

(n=413)

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| (1) 環境政策に関すること      | 175 件 |
| (2) 生物多様性の認識等に関すること | 120 件 |
| (3) 情報発信・普及啓発に関すること | 79 件  |
| (4) 環境学習・保全活動に関すること | 28 件  |
| (5) その他             | 11 件  |

(主なご意見)

### (1) 環境政策に関すること 175 件

- 持続可能な社会のために、教育に力を入れるべきだと考える。子供が学校で学んだことは、親との会話で伝えられ、親世代の意識につながるだけでなく、将来社会に出た時に環境に目が向けられ、その道の研究や製品開発、商品購入につながると考えるためである。また、環境に配慮した製品を研究していたり、製品の開発・販売をしている企業に援助をすることで、現在、それに取り組んでいる企業の外に新規の企業を取り込めるのではないかと考える。国からの援助の外に都からもプラスの援助があると嬉しい。(女性 10代 目黒区)
- 絶滅の危機に瀕している生物を保護することは、生物多様性を保全する意味では、よいと思う。しかしながら、過度な保全により人の手が介入することは、自然でない状態であるともいえるので、バランスが非常に重要だと思う。人に対して危害を与える外来種を捕獲、駆除する等、特に危険性のある生物への対応は、絶滅危ぐ種保護より優先すべきと考える。(男性 20代 世田谷区)
- 様々な理由で飼えなくなって、生物を野放しにしてしまう問題については、飼う際に、エサの説明やいざというときの保護先など、生物を「買う」側がいざというとき必要な情報を書類にして、販売側が必ず説明する義務を作った方がよいと思う。努力義務であれば、罰則はないため普及が難しいが、義務化することで販売側も買う側も生半可な気持ちで生物と共に暮らすことを決断しないと思う。(男性 20代 福生市)
- 自然に興味がない人にとっても、環境問題が重要だと思えるような工夫が必要だと思う。花粉症やヒートアイランド現象などは、多くの人に関わることだが、環境問題と結びつける話題が少ないと思う。また、経済的な効率を重視する企業も環境保護に積極的になれるよう、都から補助金を出したり、ノウハウを共有したり、宣伝を手伝ったりする必要があると思う。(女性 30代 板橋区)
- 環境に配慮した商品は、どうしても値段が高い、そして質も満足いくものではないという印象が強い。環境に配慮しているからこそなのかもしれないが、質も

納得がいくレベルになることを望みたい。そのための企業開発の支援や、環境配慮に対する消費者の意識への呼びかけなどが、必要なのではないか。また、義務教育時期の共通した学びは、その後の生活の基盤となるものになるため、この時期への教育は、欠かせないものだと思う。  
(女性 30代 国立市)

○ 生物多様性の重要性については、様々なメディアで周知が進んでいると思われる。ですが、重要性は認識する一方、日常生活で実際に何をすれば貢献できるのかは、中々認識しづらいのではないのでしょうか。自然環境を保全するための区画の整備や、教育拠点を設置して開放するなど、都政で取り組んでいただき、都民に周知していただければと思います。プラスチックごみの削減は、個人レベルの意識改革が大分進んでいるものと思いますが、多くのプラスチック包装製品が、まだまだ使用されているのが現状です。プラスチック包装がなくても流通可能となるような製品等の開発支援についても、都政で検討していただけたらと思います。  
(男性 40代 立川市)

○ 7月からレジ袋が有料化された今は、海洋プラスチックごみ問題などにどの世代も目が行きやすくなっていると思う。身近にきっかけが生まれたこの機運を逃さず、啓蒙活動を進めていくのは効果的だと思う。レジ袋が有料化されたことで、どのくらいプラスチックごみが軽減したのかなど、その経過や効果も、今後分かりやすく都民に知らせることで、環境に対する意識も高まっていくのでは。  
(女性 50代 昭島市)

○ 生物多様性の保全と持続可能な利用については、積極的に取り組み実践したいとは思っても、やはりコストがかかる、あるいは環境に優しい商品購入でも価格が高い、というネックがあり、理想と現実の狭間に直面します。これらの取組に積極的な企業や団体、個人を税制面で優遇するとか、助成する等の対策を行政が講じて、メリットを感じながら実行できる環境や、ノウハウ提供が必要な気がしています。また、緑地等も、相続が発生して宅地化されるなど、個人の限界を行政がカバーできる法制や税制の工夫が、今後は更に必要なのではと思えます。  
(男性 50代 国分寺市)

○ 島国の特性を生かし、外来生物を水際で阻止する施策を徹底して、在来種を保全すると同時に、都民からの情報提供を積極的に聴取できる対策を取ってほしい。  
(男性 60代 文京区)

○ 市街化調整区域の農地は、自然環境の醸成や大雨による保水機能を有していると考えられる。農業の後継者不足など種々の理由により農地が宅地化され、結果として緑が減少している。都市化の中で、農業が継続できるような対策を講じることにより、都心の農地を保全し緑の維持を行なったらどうかと思う。  
(男性 60代 練馬区)

○ 特に、都心では、街路樹や近隣公園緑化に注力してもらいたいです。  
(男性 70歳以上 世田谷区)

- 植物や木などを植え、涼しい環境を作るようにしてほしい。都市部でも道路脇に植物を植えるなど工夫し、環境をよくしてほしい。

(女性 70歳以上 小平市)

## (2) 生物多様性の認識等に関すること 120件

- 私自身、動物が大好きなので、人と動物が安心して共存できる環境を作るとは、とても大切だと以前から思っていました。今回のアンケートでは、外来種の脅威などを新たに学ぶことができました。まだまだ自分の意識が低いなということも痛感したので、これからは、積極的に、環境に配慮した商品や自然保全を行っている企業について、アンテナを張っていきたいと思いました。新型コロナウイルスによる外出自粛期間には、公園などにも行けず、緑の大切さを実感しました。残された自然を守るために、エコバックを使うことなど、自分ができることを一つずつやっていこうと思います。

(女性 20代 練馬区)

- 都民が全体的に問題意識を持てるようになるとよいと思う。今、自分は、ブログで環境保護について考え発信しているが、発信することで、自分自身深い学びにつながっており、環境に優しい行動を心がけようという意識になっている。

(女性 30代 江東区)

- 都民が、自然や動植物と触れあうことで理解が深まり、生物多様性の保存につながるはずである。東京都は大都市の割に緑が多いので、それを活かして、身近にある自然を使って学べる機会があればいいと思う。例えば、身近にある動植物の名前や生態について、全世代の人が学べる機会があれば、参加してみたい。市が行っているものは、子供とその親を対象にしたものがほとんどであるので、もっと年齢の幅を広げ、知識に応じたレクチャーを受けられたらいいと思う。

(女性 30代 武蔵野市)

- SDGsの2030年の達成は、世界的目標だと言われています。気候変動や環境問題は、不適切な農薬やプラスチックごみの廃棄、エネルギー開発などにより、人間による生態系の破壊が継続された結果であると指摘されることがあると思います。都民1人1人ができることに取り組むと同時に、企業などへの働きかけは、大変重要だと思います。

(男性 40代 八王子市)

- 東京都の「東京の自然にタッチ里山へゴー」のサイトを見ると、東京都がいかに自然を守るために尽力されているか分かります。ありがたいことです。おかげで子供たちも、自然や生き物が大好きです。この地球を次世代の人々に渡すために、できることは些細でも、日々の生活で努力しようと思います。空気や水がきれいであるためにも、健康であるためにも、生物多様性は大事です。やりがいのある仕事です。物を大切にして、ごみを分別して、節電節水を心がけ、緑を愛して、楽しく暮らしたいです。

(女性 50代 国立市)

- コロナ禍になってから、散歩で公園や緑地、運河沿いなどを散歩することが多くなりました。実際に、アオダイショウ、アオサギ、タヌキなどの生物を見る

と、野生の生き物への関心が高まってきます。東京都には、都立公園の更なる整備をお願いしたいです。  
(女性 60代 港区)

- 「持続可能性」は、言葉が先行している感があります。自分も含めて身近なところからできる取組に目を向けていきたい。日常生活の中で、どのようなことが上記の問題改善につながるのか、事例を挙げていくこともよいのではないかと思います。  
(女性 60代 目黒区)

### (3) 情報発信・普及啓発に関すること 79件

- 生物多様性に関する情報に接する機会がなかったため、気軽に情報に触れられるようにしてほしいです。また、都が行っている活動は、役に立っていると思うので、広く宣伝したほうが良いと思います。  
(男性 20代 豊島区)
- 都民への啓発の機会を多くすればよいと思う、興味がある人だけではなく一般に広く伝わる方法を考えてほしい。  
(男性 30代 豊島区)
- 公園に、それらの情報を分かりやすく、看板を設置して掲示すれば、通行人が何気なく目にしたり、サラリーマンがお昼休みに読んだり、子供を遊ばせている保護者が読んだりして、周知の効果があると思います。  
(女性 40代 千代田区)
- 都民一人ひとりが意識を持てるような啓蒙を行うことが、必要だと感じる。イベントが難しい状況なので、動画配信で伝えていくようにするのとはと考える。  
(女性 50代 日野市)
- 私も含めて、よく分からない人も多いと思うので、啓発活動が、まず最初だろう。なるべく優しい手段で、誰もが自分に関わる問題と感じてもらえるように進めてほしい。  
(女性 60代 稲城市)

### (4) 環境学習・保全活動に関すること 28件

- 都市部に住んでいると、自然に触れる機会が少ないので、自然観察会、自然体験の機会を増やす。里山の緑地保全活動が重要だと思う。(女性 30代 港区)
- これからの子供達には、教育の場で、学ぶ機会を増やしてほしい。大人になつてしまうと、こういうことを学ぶ場が無くなってしまふことが、問題です。  
(女性 60代 世田谷区)